

# Japanese Society

# Hip

2020  
9

日本股関節学会ニュースレター

第6号

## 海外研修帰朝報告

アメリカ・イギリス・スイス

第46回学術集会を開催して

第47回学術集会のご案内

第6回教育研修セミナーご案内

第30回大正 Award 受賞者

股関節に関する基礎と臨床の研究を通じて  
股関節学の進歩普及に貢献することを目的とする

# Japanese Hip Society

日本股関節学会ニュースレター

2020/9  
第6号

- 3 目次
- 5 理事長ご挨拶
- 6 第46回日本股関節学会学術集会を開催して
- 8 第47回日本股関節学会学術集会のご案内
- 13 第6回日本股関節学会教育研修セミナーご案内
- 14 第30回大正 Award 最優秀賞
- 15 第30回大正 Award 優秀賞
- 16 海外研修帰朝報告
- 20 役員一覧①
- 21 新理事よりご挨拶
- 22 役員一覧②
- 24 入会案内
- 26 編集後記



## 日本股関節学会 理事長 杉山 肇

神奈川リハビリテーション病院 病院長

会員の皆様には、新型コロナウイルスへの対応で大変な毎日をお送りのことと拝察申し上げます。昨年の学術集会から、久保俊一先生より理事長を引き継ぎました。ニュースレター第6号の発刊にあたり一言ご挨拶申し上げます。

本学会は、平成22年（2010年）に理事長制が導入され、久保俊一理事長のもと学会としての体制が整い、平成30年（2018年）9月に一般社団法人に移行いたしました。法人化して1年がたち学会がより安定し、久保先生ご自身が65歳となり評議員の定年を迎えられたことから、任期を1年残して昨年10月の第45回学術集会をもって理事長を退任されました。約10年間にわたり、股関節学会を強いリーダーシップで牽引された先生に対して心より御礼を申し上げたいと思います。その後を引き継ぐことは大変な重責ですが、皆様に支えていただきながら、学会がさらに発展するために基盤づくりに邁進したいと思います。皆様には、引き続き一層の御指導、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、今回のニュースレターでは、海外研修制度の3期生に当たる4名の先生方から、アメリカ、イギリス、スイスでの研修内容が報告されております。どの先生からもこの経験の喜びと会員の皆様に対する感謝の気持ちが綴れております。また、昨年大正 Award の最優秀賞を受賞した吉谷純哉先生、優秀賞を受賞した河野俊介先生の受賞コメントも掲載されております。本年度も両制度へ多くの先生方の応募をお待ちしております。

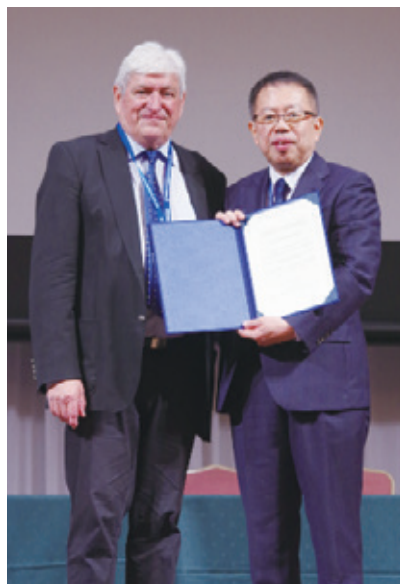
昨年の第46回学術集会は、「股関節学のイノベーション - 継承と革新 -」というテーマで宮崎大学の帖佐悦男先生のもとに2,000名という過去最多の参加者が集まり開催されました。まさに、シニアから知識と技術が継承される中で若手が革新をめざす機運が生まれた学術集会だったと思います。現在、学会としては、Femoroacetabular Impingement (FAI) の疫学調査を行っているほか、股関節学会セミナーのアドバンスコースとして股関節鏡&エコーセミナーを始めました。今年4月のアドバンスコースはコロナの影響で来年に延期となりましたが、来年はさらに拡充したカダバー（ご遺体）を利用したセミナーも企画しております。そして骨切り術や関節鏡手術のレジストリー（手術の登録）、e-learningの構築など教育システムを充実して若手の育成を進めたいと考えております。

今秋、10月23日、24日には第47回の学術集会が三重大学の湊藤啓広先生を会長として「Humanity Invention Progress」をテーマに準備されております。コロナ下での大変厳しい環境の中、万全の感染対策を引いたハイブリッド形式での開催となります。多くの方々がそれぞれの立場で参加していただき、新しい時代の中で、湊藤会長の思いのように、人間味のある学術集会として大成功となることを期待しております。

## 第46回日本股関節学会学術集会を開催して

会長 帖佐 悦男

宮崎大学医学部整形外科 教授



この度、「第46回日本股関節学会学術集会」を2019年10月25日(金)・26日(土)の2日間にわたって宮崎市のシーガイアコンベンションセンターにおいて開催させて頂きました。宮崎大学といたしまして、初めて本学術集会を開催させて頂くことは大変名誉なことであり、このような機会をあたえて頂きました会員の方々に改めまして心から御礼申し上げます。お陰様で会期中に約2000名の参加があり、盛会裏に学術集会を終えることができました。

テーマを“股関節学イノベーション ―継承と革新―”とし、これまで先人たちが築いてこられました股関節学の諸分野の成果と遺産を継承しつつ、次の世代に向けて新たな股関節学の発展のために、最先端の知識、技術の開発・修得や人材育成が重要と考え、さらに、一般社団法人化されて2回目となる学術集会であることから、股関節領域の諸問題に関し、国民に向けても発信できる場となればと思いプログラムを組ませて頂きました。

久保俊一理事長(学会開催時)に「理事長メッセージ」として股関節学の歩みと法人化された股関節学会の進むべき方向性について講演を頂きました。招待講演は、FAIやPAOの提唱者で私の恩師でもあるスイスベルン大学名誉教授のReinhold Ganz先生に股関節学の集大成をお話し頂きました。それにあわせて「会長メッセージ」では、「留学のすすめ 股関節学の師 ―スイスベルン大学で得た経験と宝―」として、御礼と若手医師へのメッセージを込めてお話させて頂きました。理化学研究所の池川志郎先生による骨関節疾患のゲノム解析の現状と課題の特別講演をはじめ、海外招待講演として、韓国よりお招きしたShin-Yoon Kim先生には股関節再置換術、Yoon Je Cho先生にはMetal on Metal人工関節の中長期成績について、また、



Ganz familyの先生方として、Michael Millis先生にはHipology 2019、Michael Leunig先生には軟骨修復、Martin Beck先生には解剖と機能のテーマで最新的话题を含めご講演頂きました。股関節医にとって必須の教育研修講演として「小児股関節」「スポーツ障害・FAI」「画像診断とAI」「関節リウマチとVTE」「大腿骨近位部（脆弱性）骨折」「股関節症の保存療法」「腫瘍」「医療安全」を取り上げました。またランチョンセミナー、イブニングセミナーとして20題の教育研修講演を企画させて頂きました。

シンポジウムでは「寛骨臼骨切り術の未来を描く」「大腿骨頭壊死にまつわる過去、現在、未来」「股関節鏡視下手術の適応と限界」「高度骨欠損に対する人工関節再置換術」「寛骨臼骨折に対する治療戦略」「高齢者脆弱性骨折に対する診断と治療」、パネルディスカッションとして「Respect soft tissueを目指した人工股関節置換術」「診断遅延例DDHの現状と治療」「Subspecialityとしての整形外科」「人工股関節周囲感染に関する治療戦略」「股関節疾患とロコモティブシンドローム」「骨切り術後のTHAにおける工夫」について討論頂き、有意義なセッションとなりました。指定演題として、シンポジウムおよびパネルディスカッションの66題を含め116題ご講演頂き、応募演題総数900題のうち医師部門の一般演題は口演510題、ポスター188題、リハビリ・看護部門では口演123題とポスター71題の発表を頂きました。ありがとうございました。医師部門の最優秀ポスター賞は聖マリアンナ医科大学の山本豪明先生、優秀ポスター賞には千葉大学の吉野謙輔先生と東京医科大学大学の岩佐宜彦先生が選ばれました。おめでとうございます。

最後になりましたが、本学術集会の開催にあたりましては、会員の先生方から多大なご支援を頂きましたこと、この場をお借りして心より御礼を申し上げます。

開催告知

## 第47回日本股関節学会学術集会

今年(2020年)10月23(金)・24日(土)に開催する第47回日本股関節学会学術集会について

会長 須藤 啓広

三重大学医学部整形外科 教授

第47回日本股関節学会学術集会を三重大学整形外科で主催させていただきますことを大変光栄に存じますとともに、関係各位および会員の皆様に心より感謝申し上げます。本学術集会は2020年10月23日(金)・24日(土)の両日に三重県四日市市の都ホテル四日市・四日市市文化会館・じばさん三重において通常通り現地開催させて頂く予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響によって現地開催+Web開催のハイブリッド形式で実施せざるを得ないと判断し、現在、鋭意努力致しております。しかし、未だ予断を許さない状況であることに変わりはなく、今後の感染拡大や行政発表などによっては完全Web開催あるいは誌面開催とすることも含め、開催形式が更に変わる可能性がありますことをご容赦頂きたいと思っております。

まずは、新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、ご遺族の皆様にご挨拶とお悔やみを申し上げます。また、未だ闘病中の方々には一日も早いご回復をお祈り申し上げますとともに、全国各地で診療にご尽力されている全ての医療関係者に深甚なる敬意を表します。2019年12月末に中国の湖北省武漢市で発生した新型コロナウイルス感染症は、現在もその流行が世界中に広がっています。2020年1月15日に国内最初の陽性結果が確認されて以降、感染は拡大し、2020年8月23日時点で、日本国内では累計感染者数が60,000人、死亡者数が1,100人を超えている一方、全世界では累計感染者数が2,300万人、死亡者数が80万人を超えてなお増加し続けています。

この新型コロナウイルス感染症の感染拡大により外出自粛を要請されるなど我々の日常生活は激変しましたが、学会の開催も例外ではありません。3月以降、多くの学会が開催中止、あるいは開催日や開催形式の変更を余儀なくされています。現地開催を模索している学会、現地開催+Web開催、完全Web開催に切り替えた学会など対応は様々です。開催形式に対する利点・欠点に



ついても様々な意見があるようです。「新進気鋭の研究者や新教授と顔を合わせて挨拶する機会が得られる」「会場での質疑応答は第三者にも参考になり、その後ロビーなどで個人的に追加質問ができる」「人となりはWebではわかりにくい」「日本経済を回すために宿泊、交通費などの費用を使用すべき」「どこにいても感染の機会は変わらない」などの意見がある一方、「現地への移動や現地での会食など、やはり感染の機会が増える」「Web開催でも充分、議論や質疑応答が可能である」「Web開催だと現地へ行くまでの時間や費用が節約できる」「地域の医療体制を維持するためにもWeb開催を推進すべき」などの意見もあるようです。

このような様々な意見を踏まえた上で、本学術集会の開催形式について杉山理事長をはじめ、理事会や運営事務局とも協議を重ねた結果、ハイブリッド形式で開催するとの判断に至りました。もちろん、そのためには「新しい学会」の在り方を考え、以下のような対策を講じていく必要があると考えています。

1. 全参加者のマスク着用厳守
2. 全参加者の体温確認と健康チェック
3. 全参加者の手指衛生徹底
4. 厚生労働省新型コロナウイルス接触確認アプリ (COCOA) の導入
5. 3密回避対策
  - ・事前参加登録により会場受付での3密を回避
  - ・会場席数の削減と入場制限
  - ・会場の入り口と出口の分離
  - ・ポスターセッションにおける発表中止
6. 飛沫飛散防止対策
  - ・講演会場内の換気
  - ・討論時の演者間距離の確保あるいは間仕切り
7. 共用備品等の消毒
  - ・座長マイク、演台マイク、キーボード、マウス、レーザーポインター等の消毒
  - ・トイレ等共用施設の定時消毒

ご協力頂きますよう、宜しくお願い申し上げます。

今回の学術集会のテーマは股関節 (Hip) の頭文字を取って「Humanity Invention Progress」とさせて頂きました。Humanityは「人間性、人情味、人間であること」などと訳されますが、どんな研究も人間ありきであり、人間の股関節を快適にするための学術集会であるという意味を込めました。Inventionは「発明、創造、新案」などの意味があり、新しい発明やアイデアを発表したり、議論したりする学術集会になって欲しいという願いを込めました。Progressは「進歩、前進、発展」です。この学術集会自身の更なる発展を願うとともに、股関節学が更に進歩、前進することを期待してテーマに加えさせて頂きました。

特別講演は日本股関節学会前理事長の久保俊一先生から「股関節外科医に必要なリハビリテーション医学の基本」についてお話し頂きます。招待講演ではThe Ottawa HospitalのPaul E. Beaulé教授に「Anterior Approach Hip Resurfacing: Best of both of Worlds?」、Kyoto Institute of Technology

のGiuseppe Pezzotti副学長には「Using Nitrogen Surface Chemistry to Design Self-disinfecting and Self-healing Artificial Hip Joints」、今年の韓国股関節学会会長でChonnam National UniversityのTaek Rim Yoon教授には「20-year Experience of MIS-Total Hip Arthroplasty」というタイトルでお話し頂く予定です。

教育研修講演は「医療AIの現状と股関節外科」、「材料学から考えるTHA術後合併症対策」、「骨代謝学から考えるTHA術後合併症対策」、「股関節症と骨形態異常 (FAI) 多施設調査の途中結果も含めて」、「Humanityにより発展してきた股関節鏡視下手術と今後の展望」、「各種人工股関節の選択」、「人工股関節におけるセメントレス・ステムのコンセプト」、「進行期・末期股関節症における骨切り術の選択意義」、「寛骨臼移動術の実際」、「股関節疾患の画像診断の基礎」、「診療ガイドラインからみた股関節疾患の治療」を学会役員の先生方をお願い致しました。

また、日本リハビリテーション医学会、日本整形外科超音波学会、日本小児整形外科学会、日本骨折治療学会、日本骨粗鬆症学会、日本脊椎脊髄病学会、日本整形外科学会骨軟部腫瘍委員会との共催で9つのシンポジウムを企画するとともに、6つのパネルディスカッション、17のランチオンセミナー、2つのイブニングセミナー、ハンズオンセミナーを予定しております。こちらについては基本的には現地で発表・質疑応答して頂きますが、演者が現地で発表できない場合、Zoomを駆使してリアルタイムで発表、質疑応答をして頂きます。一般演題は733題と多数の応募を頂いています。この場をお借りして心より感謝申し上げます。こちらについては発表データを事前にオンラインで提出して頂くことを考えています。また、共催セミナー、展示、広告などにご協力頂いた関係各位には心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が収束することを祈りつつ、全ての先生方にとって有意義な学会になるよう準備を進めて参りますので、何卒、ご理解とご協力を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

## 第47回日本股関節学会学術集会

テーマ **Humanity Invention Progress**

会期 2020年10月23日(金)・24日(土)

会場 都ホテル四日市・四日市市文化会館

会長 須藤 啓広 (三重大学医学部整形外科 教授)



### おもなプログラム

	海外招待講演 1	Beaulé PE (The Ottawa Hospital)
海外招待講演	海外招待講演 2	Yoon TR (Chonnam National University)
	海外招待講演 3	Pezzotti G (Kyoto Institute of Technology)
	特別講演	1. 股関節外科医に必要なリハビリテーション医学の基本 久保 俊一 (京都地域医療学際研究所)
教育研修講演	1. 医療 AI の現状と股関節外科 高尾 正樹 (大阪大学)	
	2. 材料学から考える THA 術後合併症対策 山本 謙吾 (東京医科大学)	
	骨代謝学から考える THA 術後合併症対策 齋藤 充 (東京慈恵会医科大学)	
	3. 股関節症と骨形態異常 (FAI 多施設調査の途中結果も含めて) 神野 哲也 (獨協医科大学埼玉医療センター)	
	Humanity により発展してきた股関節鏡視下手術と今後の展望 内田 宗志 (産業医科大学若松病院)	
	4. 各種人工股関節の選択 川手 健次 (奈良県総合リハビリテーションセンター)	
	人工股関節におけるセメントレス・ステムのコンセプト 中村 琢哉 (富山県立中央病院)	
	5. 進行期・末期股関節症における骨切り術の選択意義 大川 孝浩 (久留米大学医療センター)	
	6. 股関節疾患の画像診断の基礎 帖佐 悦男 (宮崎大学)	
	診療ガイドラインからみた股関節疾患の治療 上島 圭一郎 (京都地域医療学際研究所)	
	シンポジウム 1	股関節疾患のリハビリテーション診療
	シンポジウム 2	大腿骨近位部骨折の予防と治療における新たな知見と進歩を目指して
シンポジウム 3	股関節超音波診断の実際と有用性 (新生児から成人まで)	
シンポジウム 4	ヘルテス病 - 疾患の基礎知識と最新の治療法 -	
シンポジウム	シンポジウム 5	大腿骨頭すべり症 - 診断と治療の基礎知識 -
	シンポジウム 6	Hip-spine syndrome 治療の効率性をもとめて
	シンポジウム 7	股関節周囲の骨・軟部腫瘍に対する手術治療
	シンポジウム 8	大腿骨頭部骨折に対する最新の医療
	シンポジウム 9	大腿骨転子部骨折に対する最新の医療
パネルディスカッション	パネルディスカッション 1	THA のアプローチ
	パネルディスカッション 2	ナビゲーション・ロボット
	パネルディスカッション 3	真の骨頭中心とは
	パネルディスカッション 4	THA におけるステム側の骨反応
	パネルディスカッション 5	大腿骨頭壊死症に対する術後長期成績
	パネルディスカッション 6	THA の脱臼回避



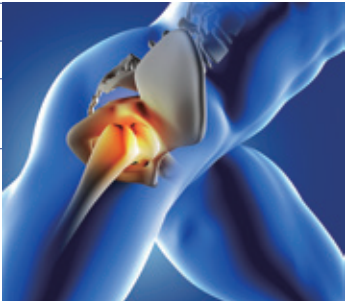


# 第6回日本股関節学会 教育研修セミナーご案内 (ベーシックコース)

日本股関節学会  
ニュースレター

股関節の専門医を目指す若い医師の育成を目的に教育研修セミナーを企画することといたしました。股関節の外傷や疾患は、小児から高齢者に至るまで幅広く、また、様々な全身疾患や障害とも関係しております。股関節の専門医として適切に診断と治療を行うためには、股関節に関する基礎科学から手術まで幅広い知識が求められます。

本セミナーを通して、多くの若い医師が、これらの専門的な知識を習得して、これからの股関節学会を担ってもらうことを期待しております。新型コロナウイルス感染症の現状を踏まえ、今回はWEBによるリモートライブ開催を予定しています。当日、会場に入場することは可能ですが、個人の情報端末(PC、タブレットなど)での視聴となります。

日 時: 令和2年10月22日(木) 10:25~15:05	
形 式: WEBによるリモートライブ開催	
会 場: 都ホテル 四日市 (510-0075 三重県四日市市安島 1-3-38)	
参加費: 10,000円 参加数: 150名	
単 位: 日本整形外科学会教育研修単位が認められております。 各セッション1単位、受講単位は1日4単位まで取得可能です。 受講料1単位1,000円	

申込方法: 第47回日本股関節学会学術集会「教育研修セミナー」ページより参加登録してください。  
<http://www.congre.co.jp/hip47/>

## プログラム

10:25 ~ 10:30	開会挨拶 理事長挨拶	高木 理彰 (セミナー担当理事) 杉山 肇 (日本股関節学会 理事長)
10:30 ~ 11:30	<b>I 基礎 モデレーター 上島 圭一郎 (京都地域医療学際研究所がくさい病院)</b> 1) Hip-Spine Syndromeとは? 2) THAにおける摺動面の歴史、コンセプトと使い分け	坂井 孝司 (山口大学) 穴戸 孝明 (東京医科大学)
11:30 ~ 11:40	休憩	
11:40 ~ 12:40	<b>II 若年者の障害と高齢者の障害 モデレーター 佐々木 幹 (山形済生病院)</b> 1) スポーツと股関節痛: 動画で解説! 発症機序と予防、リハビリテーションの実際と復帰 2) 大腿骨近位部骨折: 動画で解説! 整復と固定テクニック	山藤 崇 (東京医科大学) 伊藤 雅之 (会津中央病院)
12:40 ~ 12:50	休憩	
12:50 ~ 13:50	<b>III 小児股関節「DDHの初期対応」 モデレーター 馬庭 壮吉 (島根大学)</b> 1) 乳児股関節健診の実際 2) RB治療の実際	佐野 敬介 (愛媛県立子ども療育センター) 北川 由佳 (岩手県立療育センター)
13:50 ~ 14:00	休憩	
14:00 ~ 15:00	<b>IV 股関節手術 モデレーター 内山 勝文 (北里大学)</b> 1) 寛骨臼側の骨切り術 2) 寛骨臼側骨切り術の適応と限界	星野 裕信 (浜松医科大学) 原 俊彦 (飯塚病院)
15:00 ~ 15:05	閉会挨拶	杉山 肇 (日本股関節学会 理事長)

# 第30回大正 Award 最優秀賞

第46回日本股関節学会総会において表彰式が執り行われました。



吉谷 純哉  
地域医療機能推進機構金沢病院整形外科 医員

2020

30th  
Taisho  
Award

## Q 受賞した研究活動について教えてください。

「Crowe 分類 Type 4 寛骨臼の形態と人工股関節全置換術におけるカップ設置のランドマークの検討：幾何学的形態学的解析」の演題にて最優秀賞を頂きました。この研究は、アジア人に多い寛骨臼形成不全の中でも特に重度ないわゆる脱臼股の形態を初めて明らかにし、さらに THA における有用なランドマークを明らかにしたものであります。

## Q 受賞後の感想をお聞かせください。

このように大きく取り扱って頂き嬉しく思います。また栄誉ある賞ですので非常に光栄です。

## Q 周囲の皆様の喜びの声、反応などについて教えてください。

土屋教授、加畑先生、また研究に御協力頂きました中村先生をはじめ多くの方にお祝いの言葉を頂きました。

## Q 受賞をきっかけにご自身に何か変化がありましたか？

特にありませんが立派な盾を頂きましたので自分の机に飾っています。

## Q 今後の展望についてお聞かせください。

これからも股関節疾患に関する研究を行っていきたいと思います。





河野 俊介  
佐賀大学医学部人工関節学講座 准教授

2020

30th  
Taisho  
Award

**Q 受賞した研究活動について教えてください。**

銀含有ハイドロキシアパタイトコーティングセメントレス抗菌人工股関節の臨床での感染予防効果に関する観察研究を行い報告致しました。術後感染合併率は抗菌人工股関節使用例で低値となりましたが、そもそもの感染合併率が低く、症例数も不足しており有意差は出ませんでした。しかし、抗菌人工股関節使用例では感染リスクを有する症例が有意に多く、臨床での感染予防効果も期待できると考えております。

**Q 受賞後の感想をお聞かせください。**

股関節外科医として目標としていた名誉ある賞を頂き、大変嬉しく、光栄に思いました。指導頂いた馬渡教授はじめ抗菌インプラント研究に携わった全ての同僚に深謝致します。

**Q 周囲の皆様の喜びの声、反応などについて教えてください。**

当教室で抗菌性・骨固定性・安全性に関して基礎研究から行い、製品化されたimplantの研究での受賞であり、本研究に関与した全員で喜びを分かち合いました。

**Q 受賞をきっかけにご自身に何か変化がありましたか？**

今後も日常診療と研究活動を継続していき、より有意義な研究結果を報告できるように努力していく決意を新たに致しました。

**Q 今後の展望についてお聞かせください。**

臨床データの蓄積・解析を継続し、銀含有ハイドロキシアパタイトコーティング抗菌人工股関節の抗菌効果とインプラントの長期成績を発信できるように研究を続けていきたいと考えております。また、股関節以外の分野の感染予防にも本コーティング技術を応用できるように発展させたいと考えております。



# 日本股関節学会海外研修制度 帰朝報告①



池村 聡 (いけむら さとし)

九州大学大学院医学研究院  
整形外科 講師

福岡県出身

平成12年兵庫医科大学を卒業し、  
平成13年九州大学整形外科に入学。  
平成18年より九州大学大学院  
平成21年より学術振興会特別研究員  
平成23年より九州厚生年金病院(医長)、  
下関市立市民病院(医長)、国家公務員共  
済組合連合会浜の町病院(医長)を経て、  
平成28年より九州大学整形外科助教、  
令和2年より現職

## 研修先

Boston Children's  
Hospital

## 研修期間

2019年  
6月10日～7月5日

United States of America



写真1



写真2



写真3



写真4

私は、関節温存手術、特に Periacetabular Osteotomy (PAO) で有名な Boston Children's Hospital で研修をさせていただきました。Young-Jo Kim 教授(写真1)を中心とした股関節グループにお世話になり、6～7月は非常に手術が多い時期で多くのPAOを見学し勉強することができました。またカンファレンスでのディスカッションや、主治医がいくつかの診察室を訪問する外来診察にも同行させていただき、4週間という期間でしたが濃密で大変有意義な研修となりました。

カンファレンスではプレゼンテーションもさせていただき(写真2)、大腿骨頭回転骨切り術と大腿骨頭軟骨下脆弱性骨折について話をしたところ、いろいろな質問や意見をいただき貴重な経験になりました。Kim 教授と一緒に食事に行ってきた Michael Millis 教授(写真3)が帰国数か月後に九州大学整形外科を訪問し講演をしてくださり(写真4)、今回の研修でできたご縁に大変感謝しています。

このような素晴らしい機会を与您させていただきました久保俊一理事長、安永裕司理事に心よりお礼申し上げます。



河井 利之 (かわい としゆき)

京都大学医学部附属病院整形外科  
特定病院助教

2003年京都大学卒業  
倉敷中央病院、京都市立病院、大津赤十字病院、スタンフォード大学留学を経て  
2017年より京都大学整形外科勤務

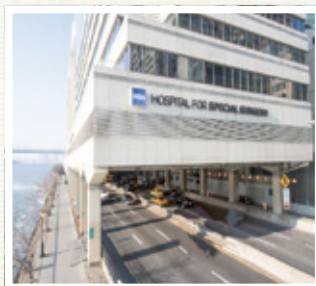
研修先

Hospital for Special  
Surgery, Newyork,  
United States

研修期間

2019年  
8月5日～8月16日

United States of America



HSSはマンハッタンの東端の川辺にあります



筆者とホストの Seth Jerabek 先生

私は2019年8月、アメリカ東海岸ニューヨークにある Hospital for Special Surgery (HSS) で研修させていただきました。

HSSは年間3万件の整形外科手術を行いU.S. Newsの調査で11年連続整形外科分野1位に選ばれている全米を代表する病院のひとつであります。私はロボットTHAについて多くの経験と業績をもつ Seth Jerabek 先生のお世話になり、THA33件、Hip Resurfacing4件の前立ちをさせていただきました。Mako Hipのみならず、術者によっては他のナビゲーションを用いたり、manual THAであったり様々な方法でインプラント設置を行っており、それぞれの精度や傾向などについて指導いただきました。手術前に立位・坐位での脊椎・骨盤ライメントを評価することで各症例毎に最適な前開き角を算出し、手術中は術前に決められた最適設置角度をコンピュータ支援により正確に再現する、といったコンセプトで治療が行われており、画一的に決められた safe-zone 内に設置するためにコンピュータが用いられているわけではないのだということも大きな学びになりました。

Jerabek 先生の豪邸で  
バーベキューをふる  
まっていたきました



# 日本股関節学会海外研修制度 帰朝報告②



**高田 亮平** (たかだりょうへい)  
 東京医科歯科大学医学部附属病院  
 整形外科 助教

茨城県出身  
 2007年福島県立医科大学医学部卒業  
 2018年より現職  
 専門は股関節

研修先

Princess Elizabeth  
 Orthopaedic Centre (UK)

研修期間

2018年4月～2019年3月

United Kingdom



Exeter



イギリス南西部にある Exeter stem 発祥の地である Princess Elizabeth Orthopaedic Centre で、2018年4月より約1年間の研修をさせていただきました。日本人で年単位で研修に訪れるのは22年前に留学された CHEF 会長であられる大塚博巳先生以来ということで、身の引き締まる思いで研修させていただきました。Primary THA はもちろんのこと、日本では頻度の少ない impaction bone graft technique 等を用いた再置換術を多数間近で見学することができました。また過去のデータベースを用いてステムのアーライメントに関する研究をさせていただき、British Hip Society での発表の機会もいただきました。私は留学前はセメントレスユーザーでありましたが、帰国後は日本の多くの諸先輩方のご指導も受けながら、セメントテクニックを症例に応じて実践しております。ここでは語りつくせない素晴らしい機会を与えていただきました久保俊一理事長、安永裕司理事をはじめとする本学会会員の皆様に改めて御礼申し上げます。





田中 秀達 (たなか ひでたつ)  
仙台赤十字病院 整形外科

秋田県出身  
2007年 東北大学医学部卒業  
東北大学整形外科教室入局後、  
東北大学病院、JCHO 仙台病院、  
いわき市立総合警城共立病院等で勤務  
2017年 医学博士取得後、現職  
専門は股関節

研修先

Department of  
Orthopaedic Surgery,  
University Hospital Bern

研修期間

2019年  
4月23日～7月5日

Switzerland

Vern



ベルンの街並

スイスの首都ベルンにある University of Bern, Inselspital に研修に行かせていただきました。ベルン市街は豊かな緑に囲まれ、旧市街地は世界文化遺産に登録されており中世のたたずまいを感じさせる光景でした。Inselspital では部位別にチームが生まれ、変性疾患から外傷まで幅広く診療していました。股関節チームは Siebenrock 主任教授を始め4人のスタッフで診療にあたっていました。私は主に外来診療、手術に参加し、Periacetabular Osteotomy、Surgical Hip Dislocationなどの骨切り手術を多く見る事ができたのは大変有意義でした。FAIの診断治療が一般的となってきた今、概念の提唱元のベルンでは現在どのように病態を捉え治療しているか興味があり、個々の症例についての Discussion に積極的に参加しました。直視下と鏡視下手術の双方を見ることにより、病態の理解が深まったと感じています。スタッフは皆親切で、様々な国から来ているフェローや学生を交えて意見を交換できて、貴重な経験となりました。週末はスイス各地や周辺国に積極的に旅に出かけ、かけがえのない時間を過ごすことができました。居心地が良く、3か月があっという間に過ぎました。末筆ではございますが、このような機会を与えていただき深謝申し上げます。



股関節チームスタッフと



Siebenrock 教授と、Party にて



Matterhorn

# 日本股関節学会役員一覧①

日本股関節学会役員をご紹介します。

役職	氏名	所属・職名
理事長	杉山 肇	神奈川リハビリテーション病院 院長
副理事長	菅野 伸彦	大阪大学大学院運動器医学工学治療学寄附講座 教授
理事	伊藤 浩	旭川医科大学整形外科学講座 教授
	稲葉 裕	横浜市立大学大学院医学研究科運動器病態学（整形外科） 教授
	上島 圭一	郎京都地域医療学際研究所がくさい病院 院長
	大川 孝浩	久留米大学医療センター 院長
	兼氏 歩	金沢医科大学整形外科学講座 特任教授
	川手 健次	奈良県総合リハビリテーションセンター 院長
	坂井 孝司	山口大学大学院医学系研究科整形外科 教授
	神野 哲也	獨協医科大学埼玉医療センター第二整形外科 教授
	浜藤 啓広	三重大学医学部整形外科学教室 教授
	高木 理彰	山形大学医学部整形外科学講座 教授
	高平 尚伸	北里大学大学院医療系研究科整形外科学 教授
	帖佐 悦男	宮崎大学医学部整形外科 教授
	中島 康晴	九州大学医学部整形外科学教室 教授
	中村 琢哉	富山県立中央病院整形外科 主任部長
	馬渡 正明	佐賀大学医学部整形外科学教室 教授
三谷 茂	川崎医科大学骨・関節整形外科学 教授	
山本 謙吾	東京医科大学整形外科 教授	
山本 卓明	福岡大学医学部整形外科学教室 教授	
監事	久保 俊一	京都府立医科大学 特任教授
	山田 治基	日進おりど病院整形外科 顧問
	安永 裕司	広島県立障害者リハビリテーションセンター 所長
学術理事	内田 宗志	産業医科大学若松病院整形外科 准教授
	加畑 多文	金沢大学附属病院リハビリテーション部 准教授
	加谷 光規	足立外科整形外科クリニック 副院長
	斎藤 充	東京慈恵会医科大学整形外科 教授
	高尾 正樹	大阪大学大学院医学系研究科器官制御外科学（整形外科） 講師



**新理事よりご挨拶** 新たに就任した学術理事から会員の皆様へのメッセージです。

上島 圭一郎 (うえしま けいいちろう)	正規所属名称・肩書	京都地域医療学際研究所 がくさい病院 院長
	専門分野	股関節外科、リハビリテーション
	抱負	この度、日本股関節学会の理事を拝命いたしました。教育環境の充実、将来の学会を担う人材育成などを通じて日本股関節学会の今後の発展に尽力してまいりたいと思っております。今後とも何卒よろしく願いたします。

大川 孝浩 (おおかわ たかひろ)	正規所属名称・肩書	久留米大学医療センター 病院長 整形外科・関節外科センター 教授
	専門分野	股関節外科
	抱負	伝統ある日本股関節学会の理事にご選出いただき光栄です。改めて責任の重さを痛感するとともに、微力ながら本学会の発展のために尽くして参ります。ご指導ご鞭撻のほどをよろしく願いたします。

兼氏 歩 (かねうじ あゆみ)	正規所属名称・肩書	金沢医科大学 整形外科学 特任教授
	専門分野	成人股関節疾患、寛骨臼骨切り術、股関節バイオメカニクス
	抱負	この度、伝統ある本学会理事に就任させていただきました。微力ですが、日本股関節学会の発展と股関節疾患に苦しむ患者さんのために少しでも貢献できるよう尽力したいと存じます。何卒よろしく願申し上げます。

中村 琢哉 (なかむら たくや)	正規所属名称・肩書	富山県立中央病院整形外科 主任部長
	専門分野	股関節外科
	抱負	伝統ある本学会の理事に選任され、光栄に存じます。教育研修セミナーやガイドライン委員としてたくさんの方の事を学ばせていただきました。次世代を担う医師や学会の発展に貢献できるように頑張ります。よろしく願いたします。

# 日本股関節学会役員一覧②

日本股関節学会役員をご紹介します。

## 名誉会員

東 博彦  
飯田 寛和  
石井 良章  
糸満 盛憲  
井村 慎一  
岩田 久  
遠藤 直人  
小宮 節郎  
進藤 裕幸  
高岡 邦夫  
田中 清介  
鳥巢 岳彦  
内藤 正俊  
浜田 良機  
稗田 寛  
船山 完一  
松永 隆信  
松野 丈夫  
松本 忠美  
宮岡 英世  
宮岡 英世

青田 恵郎  
赤木 将男  
秋山 治彦  
阿久津 みわ  
阿部 功  
安保 雅博  
安藤 涉  
飯田 哲  
伊賀 敏朗  
池内 昌彦  
石井 政次  
石堂 康弘  
石橋 恭之  
市堰 徹  
伊藤 浩  
伊藤 芳毅  
稲葉 裕  
今井 晋二  
今釜 崇  
岩崎 倫政  
岩瀬 敏樹  
岩田 憲  
上島 圭一郎  
内田 宗志  
内山 勝文  
江川 洋史  
粟 賢一  
大川 孝浩  
大谷 卓也  
大塚 哲也  
大塚 博巳  
大橋 弘嗣  
大原 英嗣  
大山 正瑞

大湾 一郎  
岡野 邦彦  
岡野 徹  
尾崎 敏文  
尾崎 誠  
加来 信広  
柘原 俊久  
片山 直行  
金治 有彦  
兼氏 歩  
加畑 多文  
加谷 光規  
刈田 達郎  
川崎 雅史  
川手 健次  
川那辺 圭一  
河原 郁生  
河村 春生  
北川 由佳  
木下 浩一  
桑沢 綾乃  
古賀 大介  
小久保 安朗  
小助川 維摩  
後藤 毅  
後藤 昌子  
小林 千益  
小林 直実  
斎藤 修  
齊藤 正純  
斎藤 充  
西良 浩一  
三枝 康宏  
坂井 孝司

坂本 武郎  
佐々木 幹  
佐藤 貴久  
澤口 毅  
穴戸 孝明  
島 直子  
神宮司 誠也  
神野 哲也  
菅野 伸彦  
杉山 肇  
湊藤 啓広  
瀬川 裕子  
関 泰輔  
高尾 正樹  
高木 理彰  
高窪 祐弥  
高平 尚伸  
武石 浩之  
立岩 俊之  
田中 歩  
田中 栄  
田中 千晶  
谷口 隆哉  
種市 洋  
筑田 博隆  
帖佐 悦男  
土屋 弘行  
津村 弘  
出家 正隆  
土井田 稔  
徳永 邦彦  
中島 康晴  
仲宗根 哲  
中原 一郎

## 評議員



学術評議員

中村 茂

中村 琢哉

中村 健

中村 利孝

中村 宣雄

中村 正則

中村 吉秀

中村 嘉宏

名越 智

西井 孝

西田 圭一郎

西野 衆文

西山 隆之

長谷川 正裕

蜂谷 裕道

馬場 智規

原 俊彦

原田 義忠

兵頭 晃

平川 和男

廣瀬 士朗

福島 健介

福田 寛二

藤井 玄二

藤井 英紀

藤井 政徳

藤岡 幹浩

藤田 裕

星野 裕信

佛淵 孝夫

堀内 忠一

前澤 克彦

前田 ゆき

間島 直彦

松下 功

松田 秀一

松原 正明

松峯 昭彦

馬庭 壯吉

馬渡 正明

三島 初

水田 博志

三谷 茂

湊 泉

宮武 和正

宮西 圭太

宮本 健史

宗本 充

本村 悟朗

桃原 茂樹

森 諭史

森島 達観

森田 充浩

森田 裕司

安永 裕司

柳本 繁

山崎 琢磨

山田 晋

山村 在慶

山本 謙吾

山本 卓明

山本 豪明

山本 哲司

山本 泰宏

吉田 宗人

脇阪 敦彦

渡會 恵介

青木 清

石田 雅史

大鶴 任彦

大橋 寛憲

岡上 裕介

楯野 良知

鎌田 浩史

後藤 公志

坂本 哲哉

山藤 崇

庄司 剛士

瀬戸口 啓夫

園畑 素樹

高田 亮平

田中 健之

崔 賢民

千葉 大介

中村 順一

西脇 徹

橋本 慎吾

林 申也

羽山 哲生

藤原 憲太

箕田 行秀

三村 朋大

渡邊 宣之

渡邊 弘之

箕田 行秀

三村 朋大

渡邊 宣之

渡邊 弘之



## ■ 会員の資格

正会員	医師
準会員	医師以外（理学療法士 作業療法士 診療放射線技師 看護師など）
賛助会員	本学会の事業を援助する個人・団体
臨時会員	医師以外（学術集会におけるリハビリテーション・看護部門の共同演者および Hip Joint Suppl. における論文共著者）

## ■ 会費

正会員	医師 10,000 円
準会員	医師以外 5,000 円
賛助会員	本学会の事業を援助する個人・団体 50,000 円
臨時会員	医師以外（学術集会におけるリハビリテーション・看護部門の共同演者および Hip Joint Suppl. における論文共著者）入会当該年度 のみの登録 5,000 円

## 入会手続き



ご入会を希望される方は、HP より入会登録フォームによる入会申し込み、もしくは申込書をダウンロードし、所要箇所をご記入の上、FAX もしくは郵送にてお申し込みください。なお、ダウンロードできない場合には、郵送いたしますので、申込先までご連絡ください。手続きに際しては必ず会則をご一読ください。

### 1. 入会申込書の記入について

- 入会申込書はすべてデータベースに登録しますので楷書ではっきり記入してください。
- 所属機関の名称は原則として、大学の場合には学部・学科まで、会社等の場合には部・課までを記入してください。
- 連絡先は会費請求書等の送付先になりますので、所属機関、自宅住所のうち、該当するものを選択してください。
- 準会員での入会の場合は、可能な限り正会員 1 名の推薦をお願いします。
- 推薦者がいる場合は、所定欄に推薦者名をご記入ください。
- 臨時会員の入会は、当該年度のみ登録となります。  
例：第 47 回学術集会（リハビリテーション・看護部門）で発表し、Hip Joint 第 47 巻 Suppl. 誌に投稿の場合、当該年度（2020 年度：2020 年 9 月 1 日～2021 年 8 月 31 日）のみの登録となります。
- 本会の会計年度は、9 月～8 月です。
- 記載された個人情報は本学会の運営業務のみに使用します。

### 2. 会費の送金方法について

入会申込書をご返送していただいてから、1 ヶ月以内に会費請求書（払込用紙）を発行いたしますので、最寄りの郵便局よりお振り込みください。

### 3. 入会申込書

正会員・準会員・臨時会員 → HP より PDF ダウンロード  
賛助会員 → HP より PDF ダウンロード

### 4. 自動振込申込について

自動振込をご希望の方は、以下の用紙をダウンロードしてください。所要事項をご記入いただくとともに金融機関届出印を押印のうえ、下記申込先まで郵送してください。

\* 入会初年度は、学会事務局よりお送りする年会費請求書（払込用紙）にて送金 手続きをお願いします。自動振込の取扱いは次年度からの適用となります。

\* 届出印相違により、自動振込申請ができない場合がありますので、預金口座に使用している届出印をご確認ください。

自動振込用紙 → HP よりダウンロード

### 申込先：日本股関節学会 会員係

〒100-0003  
東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル 9 階  
(株) 毎日学術フォーラム内  
TEL : 03-6267-4550 FAX : 03-6267-4555  
E-Mail : jhs@mynavi.jp  
URL: <http://hip-society.jp/>

# Japanese Hip Society 日本股関節学会ニュースレター

# Hip

2020/9 第6号

## 編集後記

ここ数年は当たり前のようになってきた全国各地での35℃以上の猛暑日とそれに前後する集中豪雨という異常気象に加えて、今年初めから始まった新型コロナウイルス感染症の世界的蔓延の収束の見込みが立たず、肉体的のみならず精神的な疲労感、閉塞感が続く夏が過ぎ去ろうとしています。日本股関節学会ニュースレターの第6号をお届けいたします。

昨年10月に宮崎県シーガイアコンベンションセンターにて開催されました第46回日本股関節学会学術集会の報告記を帖佐悦男前会長にお寄せいただきました。「股関節学イノベーション—継承と革新—」というテーマを具現化した様々な企画はまだ皆様の記憶に新しいのではないのでしょうか。また本年10月に三重県四日市都ホテルで開催されます第47回日本股関節学会学術集会の準備状況の概要を須藤啓広会長にお書きいただきました。「Humanity Invention Progress」というテーマに沿った興味深いプログラムが大変楽しみです。学術集会の前日に開催される第6回教育研修セミナーのプログラムも掲載させていただきました。股関節外科医を目指すうえで必須となるベーシックコースを多くの若手会員が聴講していただけることを期待しております。

第30回大正 Awardを受賞された先生方の喜びの声をご覧ください。会員の皆様には本学会学術集会誌であるHIP JOINTへの投稿を引き続き奨励していただき、その中からAward受賞を競う優れた論文が多数掲載されるようになっていただければと思います。

さらに海外研修制度に推薦され留学を終えられた4名の先生方からの帰朝報告も掲載させていただきました。それぞれ最先端の研究や臨床が実践されている施設ですので短期間ではあっても大きな収穫があったことが伺えます。

今後も股関節医療に携わる方々に有用な情報をお伝えできるようなニュースレター作成に努めたいと思います。会員の皆様からの掲載を希望する具体的内容などを是非お寄せください。

(担当理事 山本 謙吾)

日本股関節学会ニュースレター第6号 2020年9月号

発行元・お問い合わせ先

一般社団法人日本股関節学会事務局

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル9階  
(株) 毎日学術フォーラム内  
TEL : 03-6267-4550 FAX : 03-6267-4555  
E-Mail : [jhs@mynavi.jp](mailto:jhs@mynavi.jp)  
URL: <http://hip-society.jp>